

4928 ノエビアホールディングス

吉田 一幸 (ヨシダ イッコウ)

株式会社ノエビアホールディングス取締役

化粧品事業の好調により、2期連続で過去最高益を更新

◆2016年9月期連結業績ハイライト

2016年9月期の売上高は511億80百万円(前期比17億92百万円増、3.6%増)となり、予想値の505億円を上回った。営業利益は77億6百万円(同1億17百万円増、1.6%増)となり、予想値の77億円を達成している。経常利益は78億32百万円(同2億58百万円減、3.2%減)となり、予想値の79億円を若干下回った。親会社株主に帰属する当期純利益は50億49百万円(同1億59百万円増、3.3%増)となり、予想値の51億円を若干下回ったものの、創業来、初めて50億円を超えた。

2016年1月に主要ブランド「南天のど飴」の自主回収を行い、廃棄や返品に伴う損失を計上したが、セルフ化粧品の伸びでカバーすることができた。この結果、営業利益および親会社株主に帰属する当期純利益は2期連続で過去最高益を更新している。1株当たり配当金は20円増配の120円(配当性向84.2%)とする予定であり、5期連続の増配となる。

P/Lの特徴としては、販管費率が49.8%となっており、低い水準に抑えられている。特に近年は、販売促進費や広告宣伝費の効率化が図られており、当期の売上高に対する比率は12.6%となった。EPSは前期の136.79円から142.44円に上昇し、ROEは8.9%から9.2%に上昇した。

化粧品事業の増収効果が医薬品のど飴の自主回収に伴う損失額5億83百万円及び生産設備の償却費を補い、前期営業利益以上の実績を確保した。

B/Sの状況としては、現金及び預金が379億59百万円となっているが、固定負債に計上されている販売代理店からの長期預り保証金148億27百万円を差し引くと、正味現金預金残高は約231億円(前期比6億円増)となる。固定資産は291億57百万円(同9億79百万円増)となっており、三重工場への設備投資による。自己資本比率は前期の62.4%から62.2%に低下したが、引き続き60%超を維持しており、無借金経営となっている。設備投資額は25億6百万円(同7億19百万円減)、減価償却費は16億54百万円(同4億17百万円増)となった。

◆セグメント別状況

化粧品事業については、「なめらか本舗」や「エクセル」など、低価格のセルフ化粧品が好調に推移した結果、売上高は360億31百万円(前期比20億18百万円増、5.9%増)、セグメント利益は95億37百万円(同8億32百万円増、9.6%増)となった。カウンセリング化粧品は、新商品および高級基礎シリーズが堅調に推移している。また、全国の有力な販売代理店を「ノエビアビューティスタジオ」としてサロン化する取り組みが順調に進捗し、出店数が1,804店まで増加した。セルフ化粧品は、「なめらか本舗」が新商品投入によって顧客層が拡大しており、「エクセル」、「毛穴パテ職人」、「ニューボーン」も伸びている。敏感肌向け低刺激性化粧品「ノブ」は堅調に伸びており、エイジングケアの新シリーズ「L&W」で新たな顧客層を獲得することができた。海外およびOEMは、近年、アジアを中心に「なめらか本舗」が伸びており、ECモールでの販売も好調に推移している。

医薬・食品事業は、「南天のど飴」の自主回収の影響で売上高が 132 億 43 百万円(前期比 2 億 13 百万円減、1.6%減)となった。ただし、セグメント利益は 1 億 70 百万円(同 8 億 42 百万円減、83.2%減)となり、医薬品のど飴の自主回収に伴う損失を計上するも黒字を確保している。ドリンクについては、PB ドリンクの受注が伸びており、栄養補助食品も堅調に推移している。

その他の事業は、売上高が 19 億 5 百万円(前期比 12 百万円減、0.7%減)となったが、ノエビアの対面販売で取り扱っているアパレル・ボディファッションは堅調に推移している。セグメント利益については、前期にマイナス 2 億 41 百万円を計上したが、当期はマイナス 63 百万円となっており、航空関連事業の損失が改善した。

◆今後の取り組みと見通し

最終年度となる 2019 年 9 月期の経営目標は、売上高 550 億円、営業利益 100 億円、ROE 12.0%である。カウンセリング化粧品の売上高を維持するとともに、セルフ化粧品を伸ばすことで達成可能だと考えている。なお、前期までは 2020 年 9 月期の営業利益 100 億円を目標に設定していたが、今期の業績を鑑み、1 年前倒しした。

2017 年 9 月期の売上高は 520 億円(前期比 1.6%増)、営業利益は 85 億円(同 10.3%増)、経常利益は 87 億円(同 11.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は 58 億円(同 14.9%増)を見込んでおり、2 ケタの増益を計画している。上期と下期の予想を見ると、利益は下期偏重となっているが、これは上期に販売促進費及び広告宣伝費などの経費がやや集中するためである。配当は 1 株当たり 120 円を予定しており、配当性向は 73.3%となる見込みである。

主な取り組みとして、化粧品事業では、高級基礎化粧品、セルフ化粧品ともに、顧客ニーズを捉えた新商品を投入し、中核事業としての収益性向上を図る。カウンセリング化粧品においては、エイジングケア美容液などを発売し、「ノエビア ビューティスタジオ」を 1,900 店まで増加させ、サービスの質の向上を図る。セルフ化粧品においては、引き続き「なめらか本舗」「エクセル」の新商品を投入し、売上拡大を目指す。「ノブ」についても、リニューアルや「L&W」シリーズのアイテム拡充でさらなる拡販を図る。海外および OEM については、アジア市場を中心に配荷店舗を増加させるとともに、EC モールにも注力していく。医薬・食品事業については、ドリンクを中心とした独自性のあるヘルスケア新商品の投入と配置薬事業の強化で、収益性の向上を図る。「睡眠打破」シリーズは発売 20 周年、「南天のど飴」は発売 50 周年を迎えるため、販促を強化し、さらなる拡大を目指す。その他の事業については、黒字転換を実現したいと考えている。

(平成 28 年 11 月 11 日・東京)

* 当日の説明会資料は以下の HP アドレスから見ることができます。

http://www.noevirholdings.co.jp/ir/account/guide/pdf/2016_shiryo_161111.pdf